物流ニッポン 2017.08.28付

エコドラチャンピオンシップ

東ト協足立支部が優勝

スピードと燃費の調和

一般の部　トラック業界をPR

東京都トラック協会GEP（グリーン・エコプロジェクト）足立支部チーム（藤倉泰徳氏、吉本商一氏、山田正信氏）は21日、鈴鹿サーキット（三重県鈴鹿市）で開催された全日本エコドライブチャンピオンシップ2017（全日本学生自動車連盟主催）の一般の部で優勝した。学生の部と合わせた総合では準優勝。普段から実践している省燃費運転の技術を広くPRした。（高橋朋宏）

東ト協チームの総監督は佐久間恒好副会長（環境委員会担当）が務め、チーム名には全て「東ト協GEP」を冠した。結団式で士気を高め、レースに臨んだ。

一般の部には、プロドライバーやカーメーカーなど24チームがエントリー。レースは「チャレンジ」「サーキット」「テクニカル」の3ラウンド制で、タイムと燃費を競った。

足立支部チームは総合ポイント562点を獲得し、一般の部を制した。しかし、同じ条件で行われた学生の部で優勝した慶応義塾大学の699点には及ばず、2015年大会以来の総合優勝は逃した。

藤倉氏は「片山右京さんら強豪がひしめく中、優勝できてうれしく思い、また驚いている。省燃費走行を念頭に、速く走りたいという気持ちを必死に抑えた。最低スピードが決められている中で、スピードと燃費の調和をどう図るのか、チームで考えながら走行した」と喜ぶ。

また、「日頃から、自社のドライバーたちとエコドライブについて切磋琢磨してきたことが結果につながった。エコドライブを推進している我々の業界の良いPRになったと信じている」と実感。

一方、「慶応大にかなりの点差で敗れたことは、運転歴の長い我々にとって屈辱だった。来年も参加できたら今年以上の成績を収めたい」と述べた。

15年の総合優勝時もドライバーを務めた吉本氏は「まぐれじゃないことを示せた。エコドライブをしっかりやった結果がついてきた。東ト協チームは上位入賞し、エコドライブに取り組んでいると胸を張って言える。慶応大が信じられないような成績で総合優勝したので、来年はきちんと対策を立てて総合優勝を目指したい」と話した。

東ト協チームの成績は、商運サービス4位、TEAM A6位、新宿練馬連合8位などだった。

同行した斎藤康環境部長は「参加メンバーの会社はGEPに取り組み、東京都貨物輸送評価制度で評価を受けている。多くのチームが上位入賞し、良いアピールになった。また、例年より多くの学生たちに、我々は公道を走るプロ中のプロで、エコドライブに取り組んでいることを説明できた」と手応えを語った。

なお、一般の部3位には、自動車教習所3校を運営する臼田（臼田和弘社長、さいたま市大宮区）のファインモータースクールが入った。

表彰状とトロフィーを手にする（左から）足立支部チームの吉本氏、藤倉氏、山田氏